

23価肺炎球菌ワクチンを接種する前に必ず読んでください

■ 肺炎球菌とは

肺炎球菌は、市中肺炎（一般社会生活を送っている人に見られる肺炎）の起炎菌のうち、25%～40%を占める病原菌であり、慢性気道感染症、中耳炎、副鼻腔炎、敗血症、髄膜炎などの原因ともなります。

■ 肺炎球菌ワクチン予防接種の効果

予防接種を受けることにより、肺炎球菌による肺炎にかかりにくくなり、かかった場合にも症状が重くなりにくくなります。

また、予防接種の効果はおおよそ3週間で免疫ができ、5年以上免疫が持続するといわれております。

■ 肺炎球菌ワクチン予防接種による副反応

副反応の多くは、接種部位の疼痛、発疹、腫脹ですが、通常1～2日で消失します。

その他の副反応としては、筋肉痛、倦怠感、悪寒、頭痛、発熱、腋窩痛、そう痒感、じんましん、関節痛などがあります。

また、重大な副反応として、アナフィラキシー様反応、血小板減少、知覚異常やギランバレー症候群等の急性神経根障害、蜂巣炎・蜂巣炎様反応などの可能性もあります。

■ 予防接種を受ける前の注意

1. この説明書をよく読んで、肺炎球菌予防接種の効果や副反応について、よく理解してください。
2. 予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。各項目をよくお読みの上原則として接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。
3. 予防接種を受ける前に、下の表の各項目に該当するかどうか、必ず確認してください。

予防接種を受けることが適当でない方

- 接種当日、発熱がある方（37.5℃以上）
- 重篤な急性疾患にかかっている方
- 23価肺炎球菌ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがある方
- 上記以外に予防接種をおこなうことが不適当な方

予防接種を受けるにあたり注意を要する方

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する方
- 予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- 過去にけいれんの既往のある方
- 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 23価肺炎球菌ワクチンの成分に対してアレルギーを呈する恐れのある方。
- 過去に23価肺炎球菌ワクチンを接種されたことのある方
（過去5年以内にこのワクチンを接種されたことのある方は、接種により注射した部分が硬くなる、痛む、赤くなるなどの症状が強くなる場合があります。）

■ 予防接種を受けた後の注意

1. 接種当日は激しい運動を避けてください。
2. 入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしてください。
3. 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
4. 接種後は自らの健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療をうけてください。

■ 健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

健康被害の程度等に応じて法律で定められた金額が支給されます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の要因等）によるものなのかの因果関係を各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

申請に必要な手続き等については、接種医師または南アルプス市健康増進課までご相談ください。